

平成25年度 自己評価書

学校名	和歌山市立名草小学校
校長氏名	山本 紀代
作成日	平成26年2月1日

1 教育目標

心豊かで たくましく生きる子ども

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	1 地域との連携 2 保護者や地域のニーズをふまえた教育活動 3 外部講師等による学びの広がり	1 読書活動の推進 2 挨拶の定着 3 教育環境の充実	1 表現力・思考力を育てる授業の充実 2 基礎的基本的な内容の確実な定着 3 新しい教育に対応できる研修の充実

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放月間に開校150周年に向け、学校の誕生を祝う集会を公開。地域の方々にも参加を呼びかけた。また、民生委員さんに、給食を試食していただく機会を設けた。 ・親子や地域の方を児童と一緒に活動する子どもセンター事業を計画した。 ・職員の研修や児童の学習に、協力していただく地域の工場や商店、施設等を開発した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典も含め、児童に読ませたい書籍を選び、学年毎にコーナーを設けた。 ・具体的な場面を例示し、集会や学級指導を重ね、職員間でも常に意識するよう繰り返し確認した。 ・計画的に備品の購入や修理改善を行い、企業のキャンペーンに応募するなどして教育環境の充実に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けて、現教委員会で具体的なテーマに基づいた児童の反応を出し合い検討した。 ・学びタイムに学びノートを活用するなど授業と並行して、言語力の育成に向けて実践した。 ・長期休業中の補習を実施。 ・長期休業中に県外に派遣し、先進校の取組に学んだ。
取組の結果と課題【G】	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての集会に、地域の方々も来てくださり、多くの保護者の参加があった。寒い時期であったため、今後、開校記念日に近い日程に移行することを検討したい。 ・和歌山大学と連携し、地域の方も参加できる機会を設けたが、準備期間が短く、十分な広報活動ができなかった。 ・メリヤス工場にも関心を向けることができ、児童の見学や教諭の研修を実施することができた。学校の特色ある取組として定着させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な場所に自由に手に取れる書籍があるよう、読書の中が広がるよう意図的に書籍を選定した。触れる機会ももてると思うが、その後の読書活動にどれだけ影響を及ぼしたかは不明である。 ・校内での挨拶は、訪問された方に誉められることが増えた。しかし、登下校時の様子から地域の方への挨拶はできていないと言えない。 ・ICTに関する備品を中心に徐々に充実させている。特別教室の整備が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の発言と児童の反応を検証するなど、直接授業を振り返る機会をもつことができた。 ・言語力の育成のため、学びノートは効果があると思われる。しかしその活用方法が十分とは言えず、課題である。 ・補習をする場合、登下校時の安全確保が課題である。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新が滞っている。情報教育の担当者だけでは限界があるので、役割分担を細かく決める。 ・新たに見学や交流に理解していただいた企業や施設を含め、地域の豊かな財産を生かせる教育計画を再考する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が相談できる専用の教室、パニックになっている児童が安心して落ち着ける教室を設置する。 ・読み聞かせボランティアや図書室ボランティアを募集し、図書室がもっと身近な場所になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師間で相互に授業を参観する機会を増やす。 ・学びノートの効果的な使い方について研修する。 ・市内外の研修に参加できるように、校内の支援体制や旅費の確保を計画する。また、伝達講習により、研修内容が全体に広がるようにする。

3 その他の課題

・登下校の通学路が狭く、車・自転車・バイク等の交通量が多い。児童の歩き方の指導を徹底するだけでは、安全の確保が難しい。

・自然に恵まれた良さを生かしながら、自然との戦いの部分がある。梅雨時の「むかで」や暖かくなつての「スズメバチ」、年に2度繁殖する「いのしし(いのぶた)」等の被害を受けないよう児童の安全を確保することが課題である。